

Hospital News

市民病院から皆さんへ、さまざまな医療に関する情報をお届けします。

荒尾市民病

がん相談支援センターをご存知ですか

がん相談支援センターとは



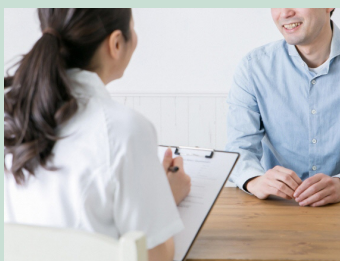
「がん相談支援センター」は、全国の「がん診療連携拠点病院」や「小児がん拠点病院」「地域がん診療病院」に設置されている、がんに関する相談窓口です。電話や対面での相談ができます。匿名での相談も可能です。

患者さんやご家族のほか、市民病院以外へ通院や入院中の人でも、地域の皆さんならどなたでも無料で利用することができます。

どんなことが相談できるの？

病気のことや生活に関することなど、患者さんや家族が抱える不安や疑問を何でも相談できます。

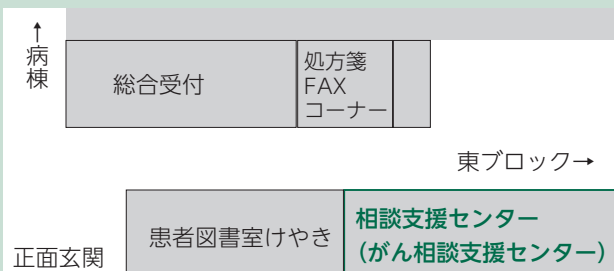
がんを抱えていても、その人らしい生活や治療の選択ができるように、市民病院では、緩和ケア認定看護師・緩和薬物療法認定薬剤師・がん専門相談員などが話を聞き、問題解決へのお手伝いをします。



相談できること

- ・病気のこと
- ・検査や治療のこと
- ・家族のこと
- ・不安なこと
- ・生活や仕事のこと
- ・治療費のこと
- ・セカンドオピニオンのこと
- ・緩和ケアのこと
- ・がんサロンや患者会のこと など

がん相談支援センターの場所



【問い合わせ】 がん相談支援センター
(午前8時30分～午後4時15分・土日祝日を除く)
☎ 63-1115

クリスマスコンサートを中止します

毎年開催していた「荒尾市民病院クリスマスコンサート」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止することを決定しました。

楽しみにしていた皆さんには大変申し訳ありませんが、ご理解をお願いします。



連載「あらお健康手帳」

第2回

「あらお健康手帳と地域包括ケアシステム」

今までバラバラに分かれていた医療や健康に関する手帳を1冊にまとめた「あらお健康手帳」。

今回は地域包括ケアシステムと医療機関でどのように活用されているかを紹介します。

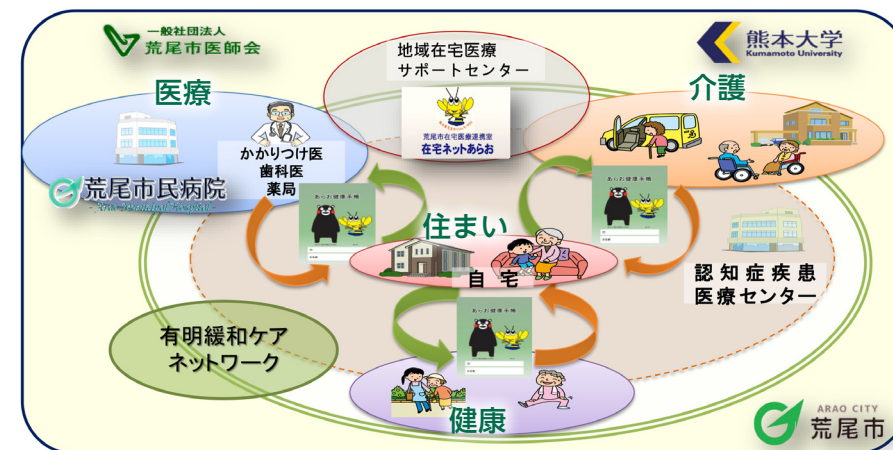


地域包括ケアシステムってなに？

2025年、団塊の世代が75歳以上となり、医療・介護の需要の増加が見込まれます。

地域包括ケアシステムは、その年に向けて、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の支援体制の整えていくものです。

市では、「あらお健康手帳」を活用し、地域包括ケアシステムを推進しています。



あらお健康手帳が地域包括ケアシステムのカギになる

「あらお健康手帳(以下手帳)は病気になる人しかもらえない?」
いいえ。病気がなくても希望する人には全員に配っています。健康診断などの結果や、予防接種の接種日を記録すると、病気の予防に役立ちます。
「医療機関で手帳が役立つのはどんなとき?」
複数の医療機関にかかっている患者さんでは、手帳を持ってきてもらえると、医療者などの専門職の情報共有に繋がるので非常に役立ちます。
例えば、かかりつけ医でがんをみつけたとき、市民病院に手術をお願いするとします。術後の治療や検査でも市民病院を受診することになるので、受診時にお互いが要点を記録しておく、病院間で治療経過を把握することが出来ます。患者さんにも手帳を見ることで、



荒尾市医師会理事
西原クリニック
なかむらみつなり
中村光成先生

なぜこの治療を受けているのかを再度確認することができ、患者さん自身も一緒に治療に取り組んでいると実感できているようです。
また、手帳の内容が話のきっかけになったり、検査データを記載しておくことで、期間が空いてきたときに「そろそろ検査をしましょうか」と勧めやすくなりました。
「地域包括ケアシステムを進めるために必要なことは?」
地域包括ケアシステムを機能させるには、地域住民自身がまちづくりの一環として地域医療体制を作り上げていく必要があります。
この10年間、医師会、市民病院、認知症疾患医療センター、市役所は1つのチームとなり、この課題に取り組みました。その結果が「あらお健康手帳」です。
市民の皆さんが積極的にこの手帳を利用し、育てていくことで、荒尾市の地域包括ケアシステムの取り組みが発展していくと考えられています。

